



しあわせ運べるように・群青をうたうプロジェクト
ニュース
No1 2025.7.24
しあわせプロジェクト 神戸市兵庫区芦原通2-1-

ジーライオンアリーナ神戸で開催の大音楽会で 是非一緒に歌いましょう!! (11月24日(月・祝) しあわせ運べるように



曲紹介

この曲を作詞・作曲された白井真先生は、震災が起こる前から、「しあわせを運ぶ天使の歌声合唱団」という子どもが地域の人や学校の先生に歌のプレゼントをする企画をしていました。阪神淡路大震災では、自宅が全壊。代表曲「しあわせ運べるよう」は震災の復興を願う歌として神戸市すべての小学生をはじめ、世界各地で歌い継がれ、2021年1月17日より神戸市歌に指定される。

群青

この曲が生まれたのは、福島第一原子力発電所から半径20km圏内に位置する福島県南相馬市。南相馬の子どもたちが東日本大震災によって離ればなれになってしまった仲間を思って、つぶやいたり、書き留めた言葉を、小高中学校の小田美樹先生がまとめて、曲をつけた作品です。震災後、全国に避難していった友だちが原発事故で小高に戻れないなど、たくさんの不安が生徒たちにのしかかっていましたが、ある日、小高中を離れた生徒がどこにいるのか、大きな日本地図に生徒の顔写真を貼り付けながら、子どもたちが「遠いね」「でも、この地図の上の空はつながってるね」など話しながら、詩づくりが始まったそうです。子どもたちの思いを綴った日記や作文、他愛もないおしゃべりから、小田先生は子どもたちの想いを書き留めていき、それをつなぎあわせて、「群青」ができました。

地元神戸では・・・うたごえ新聞7/21付8面参照



ジーライオンアリーナ神戸で歌いたいと、120名が応募

「しあわせ運べるよう・群青を歌うBコースに応募したいのですが」との電話をはじめ、募集し始めた5月からファックス、メール等で次々と申し込みが届いています。現在約100名を超える申し込みで、参加しやすいようにと、練習会場を神戸市の東部・中部・西部に分けて練習しています。遠く堺からもこのアリーナで歌いたいと来られています。



上:西部練習会場
下:東部練習会場



大阪では

大阪北部センター合唱団では、白井先生を講師に、練習会を持ち、大音楽会には50人以上で舞台参加したいとの事。

京都では

75周年フェス・ファイナルコンサートの「群青」の歌い手を祭典参加につなげようと計画中